

伊予鉄高速・貸切バスの安全対策強化について

現在、全国的にバス事故が多発しております。当社では、高速バス、貸切バスといった長距離バスの安全対策につきましては、安全性を向上させる特殊装置をバス車両に導入するなどの対策を行ってまいりましたが、今回の事故多発を受けて安全性の高い装置の導入を今後拡大させるとともに、乗務員の脳ドック検診など健康管理の強化を図ってまいります。

1. 安全性向上装置

(1) ドライブレコーダー

《導入率》 平成 27 年度現在 64.5%→平成 28 年度末 85.5%予定

(2) 先進的安全装置

①衝突被害軽減ブレーキシステム

衝突時に自動的にブレーキが作動して被害を軽減する装置。

②車両安定制御（横滑り防止）システム

車線からの逸脱を画像センサーがとらえ、警報を発する装置。

③ふらつき防止装置

ハンドル操作のふらつき具合の増大を検知すると警報を発する装置。

④ドライバーモニターシステム

走行中の運転士の顔と目をモニターカメラが常時確認しており、異常時に警報を発する装置。

※上記(2)の先進的安全装置は、現在一部の車両に装備されておりますが、今後導入する新車には全て標準装備として搭載し、安全性向上に努めます。

2. 乗務員の健康管理

①脳ドック検診

平成 28 年度から、毎年健康診断のメニューにバス・電車乗務員を対象とした脳ドック検診を実施します。(50 歳以上・5 年毎)

②睡眠時無呼吸症候群（S A S）のスクリーニング検査

平成 27 年度現在、全乗務員実施済み。平成 28 年度から再度全乗務員を対象に実施します。

③健康診断の回数

当社は全従業員を対象に、年 2 回実施しております。

以上